

オプトアウトにより実施する研究

研究課題名	国内スノーボード競技者における傷害調査と予防への取り組み
倫理審査委員会承認番号	我汝会えにわ病院倫理委員会
研究開始日	2024年7月26日
研究終了日	未定
研究目的	スノーボード競技は他競技と比べて傷害が多く、傷害予防プログラムが必要とされています。そのため、発症率や重症度など、年代や競技レベルごとの傷害の問題の認識を行い、身体特性や受傷場面の分析を行ない受傷要因を検討することが必要です。スノーボード競技の傷害は、愛好家レベルでは上肢が、エリートレベルでは膝が多く、海外では競技種目によって受傷部位や重症度が違うといわれており、身体特性についての調査は少なく、世界大会レベルと国内大会レベルでの競技レベルでの実態は不明な点が多いです。本研究の目的は、筆者が院外活動で関わっている世界大会レベルである日本代表選手と、国内大会レベルである北海道選手における傷害や身体特性との関連について、後ろ向きに調査し、群内・群間で比較することです。
研究対象者	北海道選手は、北海道のスノーボード選手を対象とした傷害調査や体力測定会に参加した選手。日本代表選手は、過去にスノーボードスロープスタイル/ビッグエアの日本代表チームへ所属した選手。
研究概要	<①傷害調査>まず始めに、日本のスノーボード選手ではどのような傷害が問題となっているかを調査します。項目は先行研究を参考にして作成します。北海道選手は以前より実施している傷害調査アンケートより取得し、日本代表選手はチームが記録している傷害記録や、全日本スキー連盟に報告したレポートより取得します。競技レベルによっての傷害の部位や重症度などの傾向を調査します。<②傷害リスク因子の検討>①で分析した傾向を基にして、受傷状況や受傷映像などから受傷メカニズムを検討します。その後、傷害データと体力測定データのそれぞれの特徴および、双方の関連を検討し、競技レベルごとの傷害リスク因子の分析を行います。<③介入効果の検討と再検証>②で明らかとなった傷害リスク因子を改善する介入を実施して効果を検証します。効果が確認できなかった場合は、介入を再検討した後に効果を再検証します。効果が確認できるまで繰り返し、傷害予防の効果を上げることを最終目標とします。
研究に用いる情報の種類	・傷害記録データは、身体情報（性別、年齢）、傷害情報（傷害有無、傷害部位、発症率、重症度、受傷状況、受傷映像、受傷原因、医療機関受診の有無）、競技情報（スノーボード歴、1年間の総滑走日数、競技種目）です。体力測定データは、形態計測、関節可動域、筋力、パフォーマンステスト、姿勢・動作分析です。
研究の資金源研究に係る利益相反及び個人の収益	本研究に必要な予算はありません。
研究責任者	我汝会えにわ病院リハビリテーション科 三井亮平
研究分担者	北海道千歳リハビリテーション大学 小林巧 我汝会えにわ病院リハビリテーション科 石田和宏、家入章、木下幸大 株式会社ルシファ 綿谷美沙子 北海道整形外科記念病院リハビリテーション部 神成透 リラ整形外科クリニックリハビリテーション科 秋山亨 我汝会えにわ病院整形外科 木村正一、西尾悠介
問合せ先	所属：我汝会えにわ病院リハビリテーション科 氏名：三井 亮平 電話番号：08045096956 E-mail：ryohei.mitui.12@gmail.com